



日本福祉大学

国際福祉開発学部だより

News Letter

Faculty of International Welfare Development

October 2023 vol.

19

〒477-0031 愛知県東海市大田町川南新田 229 日本福祉大学 国際福祉開発学部

目次

- P.1 「国際学部」のロゴが誕生!!
- P.1-2 第25回World Youth Meeting(WYM)開催報告
- P.3 新入生歓迎セミナー / アクティブ・ラーニング期間の紹介
- P.4 地域や高校で活躍する留学生
- P.5 カンボジアでの国際協力実践(JICA草の根事業)の取り組み
- P.6 ノーステキサス大学学生との交流
- P.6 卒業生のお仕事とメッセージ(英語教員)
- P.7 就職活動最前線! 卒業後の進路紹介
- P.8 国際開発同窓会ホームカミングデイ開催報告

国際福祉開発学部では、世界の人々の持続可能な『幸せ』のために、国際的なチームで協力して地球市民としての責任を果たすことのできる人、そしてグローバル化するこれからの国際社会や(多文化)共生社会をともに創る人を育てていくことを目指しています。

2023年度前期には、数々の行事が対面で行われました。今回のニュースレターではその一部をご紹介します。

学生アイデアで「国際学部」のロゴが誕生!!

2024年度から学部名が「国際学部」へと変更になることに合わせて、学生に「国際学部のロゴ」デザインを募集しました。学生投票の結果、2年生の大木香乃さんのアイデアが最多数を獲得し、採用が決まりました!!これからいろいろな媒体で活用していく予定ですので、皆さんも探してみてくださいね!!

大木さんは「国際学部の新しいロゴとして選ばれたことに嬉しい気持ちでいっぱいです!今後学部で使われるということで精一杯作らせて頂きました。学部のみならず「地球市民」を目指していけるようなデザインにしています」と語ってくれました。



↑新しい学部ロゴ

↑創作者の大木さん
(愛知県立愛知商業高校出身)

第25回 World Youth Meetingを開催しました!!

1. 第25回World Youth Meetingの概要

2023年8月7日～8日に、第25回目のワールド・ユース・ミーティング(WYM)が開催されました。WYMは、国内外の高校生や大学生がチームを組んで英語でプレゼンテーションを披露したり、様々な交流活動を行う、学部の行事の中でも、学年を超えて取り組む大きなイベントです。

コロナ禍での工夫を経て、昨年度からはオンラインと対面を組み合わせたハイブリッド形式で実施しています。今年は海外38校、国内17校が参加し、全体テーマ“Conflict Resolution referring to SDGs(紛争をふせぐSDGs この手で争いの芽を摘む)”のもとで、プレゼンテーションやディスカッションが行われました。



2. 前期授業「国際交流ファシリテーション演習」と学生実行委員会

1年生と2年生が合同で学ぶ演習科目「国際交流ファシリテーション演習」では、WYMイベントを会場校として運営する母体としての学生実行委員会が組織され、全体をとりまとめる統括はじめ、プレゼンテーション担当、プレゼン運営や広報、司会、海外参加者への対応、SDGs企画など7つの係に分かれて、当日までの準備や海外参加校との調整、当日の会場運営などの企画・運営を手分けして行います。

3. 文部科学大臣賞の受賞と、海外から来日したゲストの声

コロナ禍以降ということもあり、海外からの来日が叶うかどうか心配されましたが、フィリピン、マレーシア、カンボジア、中国、台湾等から学生が来日して、本学部の学生とチームを組み、協働してプレゼンテーションを創り上げました。また、オンラインでは、カンボジアやウクライナの大学生ともつながり、遠隔での協働プレゼンテーションにも挑戦しました。

初日に行われた英語プレゼンテーション大会では、フィリピンのマニラ市立大学から来日したゲストと日本福祉大学の学生のチームが見事に文部科学大臣賞を受賞しました。受賞チームは、バナナやUNIQLOなど、学生にとって身近な例を挙げながら、国際的な貿易の不均衡によって現地の生産者がどのような課題に直面しているかを指摘し、SDGsの中でもゴール8「働きがいと経済成長」やゴール12「責任ある消費と生産」に言及し、私たち一人一人に、責任ある消費者としての行動を求め、実際の具体的なアクションとして、「SDGsタグの使用」を提案しました。

受賞者の一人であるマニラ市立大学のザイリーンさんは、参加した感想を 'The World Youth Meeting 2023 has widened my heart as well as my intellect. It has made me realize that we can all work together to create the future we want, guided by principles like empathy, cooperation, and a deep faith in our ability to build a world that honors both our shared humanity and diverse cultural history' と締めくくりました。



4. コラボレーション先との継続的なつながりを通じた、学生たちの段階的な学び

今年は、去年は2年生の学生実行委員会のリーダーとしてまとめ役を担っていた学生が、積極的に海外とのコラボレーションで活躍しました。去年のWYMの後に、実際にカンボジアを訪れて現地の学校での協働や交流を行ったという経験を踏まえて協働プレゼンテーションを行った3年生の学生の一人、田辺紫野さんは、「今回のプレゼンテーションでは、今年2月に実際にカンボジアを訪れて行った支援や、カンボジアの就学率の問題を取り上げた。～実際に行く事で学んだことはたくさんあるが、さらにそれを英語にして他の人々に伝えることでカンボジアという国について誰かに興味をもってもらえたらと思う～自分に出来ることは何か考えること、そして行動することは、人として大切であると思う」と感想を寄せてくれました。

1年目、2年目、3年目と、経験を蓄積することで担う役割が変わりつつ、皆で大きな一つのイベントを創り上げ、かつ参加者一人一人が自分の成長につなげる機会になっているならばとても嬉しいことです。

5. 双方向コミュニケーションができる「楽しい」時間を重視

二日間のイベント期間中には、メインイベントの英語プレゼンテーション大会に加え、参加者間の相互理解や自由なコミュニケーションを目的とした交流会やディスカッションイベントも行われ、国内外の高校生、大学生が参加しました。この学部で日本人学生とともに学ぶネパールとベトナムの留学生が自らの国や課題を紹介してくれるセッションでは、日本人の高校生、大学生が英語と日本語を駆使して意見交換をしていました。他にもカンボジアのゲストからクメール語を学ぶセッションや、国際協力現場の体験談など、どの部屋も盛り上がりました。



6. 来年に向けて

25年に渡り実施してきたWYMですが、現状維持は1度もなく、学生の熱意により、よりよいイベントを目指して新たな挑戦が行われています。節目のWYMは完結しましたが、第26回WYMの開催に向けた活動・プロジェクトはまたすぐにはじまります。どうか、楽しみにしていてくださいね。



春季(新入生歓迎)セミナー報告

4年 里中優希(三重県立高田高校出身)

2023年度4月5日に行われた新入生セミナーは、留学生を含む新2～4年の学生が中心になって企画し、ゲーム、クイズ、キャンパス内宝探し(宝は教員でした!）、スタンプカード、異文化コミュニケーションなど、盛りだくさんの活動を通して、1年生同士だけではなく、先輩たちに知り合う機会をできるだけ作りました。コロナ禍のため3年連続で新入生セミナーが実施出来なかったのも、先輩である我々が「して欲しかった新入生セミナー」を頭で想像して計画してみました。教員・在学生の紹介では、教員・在学生にお気に入りの写真を1枚と呼び名、そして好きなスタバのメニューを送ってもらいました。皆個性的だったから、スライドを作っている時楽しかったです!

また、国際の多文化を表現するために、新入生セミナーでは3種類のお弁当を用意しました。名和町のカーリーゾーンさんのカレーとナン・タンドリーチキンティッカ弁当、知多市のベトナムカフェ ラムさんのバインミー、タピオカミルクティーとバインフラン弁当、そして東海市のてじ韓のビビンバと鶏の唐揚げ弁当でした。ベトナムの留学生が多いからかベトナム料理が人気でした。そしてどの料理も「美味しかった!」と感想を頂き良かったです!



新4年生の自己紹介スライド



新入生、教員、上級生の「隣の人と自己紹介」タイム

アクティブ・ラーニング期間の紹介

この学部では、4年間の在学中に、休学せずに語学留学や学外でのフィールドワークを行いたいという学生の希望に応じて、クォーター制(1年間に4つの期間に分割)を採用し、2年生の11月(第4クォーター)から3年生の5月(第1クォーター)を「アクティブ・ラーニング(Active Learning)期間」として設定しています。この期間を最大限に利用すると、以前は休学しないと実現できなかった半年以上の語学留学なども可能になります。

また、この時期に、フィールドワークやインターン等を通じて自分の「やりたいこと探し」が出来るのが、4年生で取り組む卒業研究のテーマを見つける足掛かりにもなっています。

学生の自発的な取り組みを通して、単位を取得できることも、アクティブ・ラーニングの魅力です。単位の取り方も人それぞれで、①1週間や2週間、1か月以上などの現地調査を実施するフィールドワーク、②一定期間の職場体験を行うインターン、③集中的に語学学習をして英検やTOEICなどの語学試験で成果を出すと単位が認定される、など、学生のやりたいことに応じて、幾つかの方法で、この期間に「自ら考え、企画し、実践したこと」が単位取得につながるように制度整備がされています。韓国、中国やインドネシア等海外での体験以外にも、愛知県内に住む外国ルーツの子供支援に参加したり、自分の興味あるテーマで身近な地域を調査したりと、多様な企画が実践されています。



↑★6月に行われたアクティブ・ラーニング期間の説明会では、先輩たちが、インターンやフィールド調査の実体験を報告してくれました。

地域や高校で活躍する留学生

国際福祉開発学部の留学生は、学部の多文化共生を発信する一環として、知多半島地域の住民とさまざまな企画において交流する機会を得ている。今回は、2023年度前期に行われた活動から2つを取り上げて紹介したい。

半田市役所の職員研修では、「外国人とわかりやすく日本語を話すワークショップ」にファシリテーターとして3回参加させていただいた。住民の4%以上が外国籍を持つ半田市では、市役所が「多文化共生推進計画」を進めている。その一つが、市役所の職員が外国籍住民に適切に対応できるように、留学生と業務についてやさしい日本語を使って話す練習をするイベントであり、今年で3年目の実施となった。留学生にとって、市役所は本来「緊張する場所」でもあるが、このワークショップに参加することによって、自らも市役所で必要な情報を求める自信につながるということも、学生の振り返りからわかった。

さらに半田市では、昨年度からの継続で、留学生と日本人学生が共同で「親子多文化共生ワークショップ」も企画して実施している。7月のイベントではネパールのダンス、ベトナムのおやつづくりや中国の紙工作などのアクティビティを実施し、多国籍の半田市民の方と一緒に仲良く取り組んだ。



半田市役所でワークショップのファシリテーションをする留学生



半田市の親子多文化共生ワークショップで紙工作

もう一つの活動の場として、留学生は6月に日本福祉大学の附属高校の授業で出身国の紹介をした上で、高校生と交流の時間を持つ機会を得た。

この取り組みも数年前から始まり、附属高校の生徒さんが留学生の出身国について知る機会となっている。また同時に、国際福祉開発学部の雰囲気を経験していただくことも、こうした交流イベントの目的のひとつである。今年はミャンマー、ベトナム、ネパールやインドネシアの留学生が参加し、それぞれの国の衣装を着て、高校生に向けてわかりやすい発表をしたり、交流を通じて高校生と仲良くなった。

こうして「出会った」附属高校出身の生徒さんが、次年度以降、今度は国際の学生になり、留学生の友達と一緒に多文化共生の良さをさらに体験、発信できるようになることを期待したい！



日本福祉大学附属高校の生徒さんと、ミャンマーとベトナムの留学生



カンボジアでの国際協力実践(JICA草の根事業:教育開発)の取り組み



国際福祉開発学部 学部長 佐藤 慎一

この学部では、独立行政法人国際協力機構(JICA)から草の根技術協力事業を受託し、カンボジアの教育開発プロジェクトを実施しています。カンボジアでは、戦争や独裁政権による困難な時期が長くあり、教育環境には多くの課題があります。子どもたちによりよい教育を届けるため、現地の教員養成大学と連携して各種の取り組みを行っています。具体的には、現地からの要請に基づき、デジタル教材を活用した小学校の英語、算数教育の改善に取り組んでいます。2023年2月には、2年生6人、3年生1人(学年は渡航時点)の計7人の学生が現地で活動をしてきました。

<事前の活動>

渡航前には、現地教員養成大学の先生方、学生達と交流し、デジタル教材の作成・活用に関する研修を行いました。また、現地ではノートを持っていない子どもも多いという情報を踏まえ、日本から持参してプレゼントしようということになりました。学習内容の一部やメッセージを書き込むなどの工夫が行われました。



プレゼントしたノートも使ってグループワーク実践

<現地で活動>

現地では、教員養成大学に加えて、多くの小学校を訪問し、授業の様子を観察したり、研修で学んだ教育手法を現地若手教員と一緒に実践したりしました。一部の学校では、学生が日本の紹介のプレゼンテーションも行いました。ビジュアル重視のスライドを用意し、英語も簡単な単語・表現を用いるなど、小学生にも伝わるような工夫が見られました。



学生のプレゼンテーションに子どもたちも興味津々

現地の先生が子どもたちの様子を見て、通訳・補足してくれるなど、協働での授業に子どもたちの反応も上々でした。現地の先生方からも、子どもたちがとても意欲的だったなど、好意的な意見をいただいています。

授業での活動を通じて子どもと学生たちの距離はすぐに縮まり、休み時間には言語を超えたコミュニケーションが楽しく行われていました。



休み時間は楽しく交流

<帰国後>

現地での活動は、学生にとって印象深いものだったようですが、現実的な課題解決に向けた実践であり、単なる「いい思い出」にはとどまらず、帰国後も活動は続いています。現地の先生、教員養成大学の学生とともに作成したデジタル教材が効果的に活用できているかを評価の上、改善点の検討を行っています。現地と協働した活動は今後も続きます。

<JICA中部訪問>

これらの活動の様子を示す写真が、JICA中部 なごや地球ひろばで行われている企画展・パネル展「HOPE」(2023年5月18日～9月18日)で展示されました。カンボジア現地で活動した学生を含む16名が見学を兼ねて訪問プログラムに参加し、事業を担当いただいているJICA職員の方々への活動の報告も行いました。



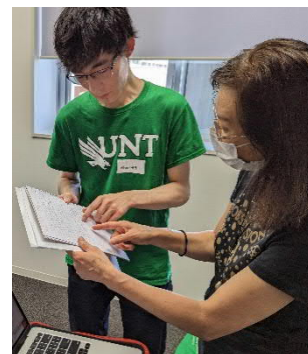
写真展「HOPE」で活動を紹介する写真の前で
(右から2列目が本学部の取り組みに関する写真)



ノーステキサス大学の学生が東海キャンパスを訪問し、交流しました

日本語研修を目的として、ノーステキサス大学（UNT、アメリカ・テキサス州）の学生23名が来日し、6月12日から2週間、東海キャンパスを訪れました。2019年以来の今回の訪問では、多くの授業参加や懇談の機会があり、学生同士が活発に交流することができました。

★UNTの日本語授業では、本学部の1年生や日本語教師養成課程の上級生がティーチングアシスタントに！



★本学部の「日本語」や「English Presentation」の授業や、英語教職ゼミにもUNTの学生が参加！



卒業生のお仕事紹介 「愛知県立高校の英語科教員です！」



高校時代、「苦手な教科はなんですか？」と聞かれると必ず「英語」が挙げられるくらい、苦手な教科でした。そんな私が、なぜ英語科教員を目指そうと思ったのか...。「先生になりたい」「発展途上国に興味がある」というこの2つの気持ちからでした。この2つを学ぶことができる大学はどこか？を探した結果が、「国際福祉開発学部」への入学でした。

大学では、教員になるための講義を受けつつ、異文化理解などの講義にも積極的に参加し、発展途上国について学ぶ日々を送りました。特に異文化理解の講義では、「視点は1つではない」ことの大切さを知り、物事を多角的に見ることができるようになったと思います。それは今、自分が仕事をする上で非常に役に立っていることの1つです。

大学を卒業してから5年間は常勤講師として働き、今年4月から正規採用され、現在働いている高校に配属されました。小さいころから「先生」という仕事に興味があり、学生時代には必ず高校の英語科教員になると決意し、ようやくそれを実現しました。今は充実した日々を送れていると自負しています。時には嫌なこと、辛いと感じることももちろんありますが、「全部丸ごと楽しんでやる！」という気持ちで元気に働いています。

野田 美里（旧姓 西頼）愛知県立瀬戸西高校出身



就職活動最前線！ 卒業後の進路が決まりました！

学部での学びを生かして卒業後の進路を決めた4年生の何人かに、声を聴いてみました。日本福祉大学がめざす、国内外での「人々のふつうの暮らし」を、それぞれの立場から支えていってくれることを、大いに期待しています!!

♡卒業後の進路、♡就活時の自己PR ☆学生時代の活動写真

Nguyen Thi My Linhさん
(ベトナム出身)

♡Man to man 株式会社(総合職)

人材派遣・人材紹介コーディネーター職として内定をもらいました。企業への営業活動、スタッフ採用、候補者の面接、人材コーディネートなどの業務に従事する予定です。

♡私は学生時代、勉強だけではなく、いろいろな活動やイベント等に参加しました。例えば、日本人の高校生や韓国の大学との交流会、ワークショップ、フィールドワークなどです。また、周りの友達、先輩の話を通じて、人材業界に興味を持ち、卒業後は人材サービス業界の仕事に就きたいと思うようになりました。仕事を深く理解できるように、人材業界の会社のインターンシップに参加して、就職活動ではその経験や学んだことも生かして内定を取得できました。社会人になったら、まだ体験したことがないこと、新たなことをさらに知り、勉強したいと思っています。



☆付属高校での交流会にて

山本彩加さん
(愛知県立東海南高校出身)

♡半田市役所(一般事務職)

♡大学で国際情勢を学び、地域に寄与する重要性に気付いたこと、また福祉を裏側から支えたいという思いから、行政職員を志しました。就職活動では、大学での学びで得た多文化共生を実現するための考え方や、福祉に対する熱い思いを伝えました。就職後は市民の皆様が中心であることを忘れず真摯に職務に取り組む所存です。



☆東海市地域大円卓会議で発表しました。



☆カンボジアのフィールドワークでホームステイ先の子供達と

前嶋優武さん
(静岡県立富士宮東高校出身)

♡愛知県警察

♡私は在学中に二度、韓国への留学を経験しました。就職活動では、自らの経験と主体性、そして二度の留学で培った語学力をアピールしました。就職したら、グローバル化が進み、外国人が身近にいる今日、強みである語学力を活かして、多文化共生に向けてさまざまな犯罪を防ぎたいと考えています。



☆ソウルで野球観戦！

石原 千嘉さん
(愛知県立丹羽高校出身)

♡JICA海外協力隊



(日系社会青年海外協力隊、日本語教育) 派遣先:ブラジル

仕事内容:ブラジルサンパウロ州近郊の日本語学校に赴任。日本語の授業に加え、日本文化、体育、音楽、図工など得意な分野で、計週10コマ授業をする予定です。また、日本語学校連合会へ入会し、地域などで開催されるイベントへの企画運営に参加します。

♡私は大学時代、日本で暮らす外国ルーツの子どもの日本語学習支援に携わりました。この経験を通して、日本語を外国語として学ぶ面白さや、日本ではマイノリティーである外国籍の子どもの学習実態に興味を持ち、卒業後は子どもの日本語教師の仕事に就きたいと思いました。就職活動では学生時代のボランティアでの経験をアピールしました。子ども達に「日本に来てよかったな」と少しでも思ってもらえるような教師を目指します。



☆カンボジア研修にて



国際開発同窓会「HOME Coming!! Day」開催報告

福祉経営学部国際福祉開発マネジメント学科及び国際福祉開発学部の学域同窓会である国際開発同窓会は、2023年7月1日(土)に企画『HOME Coming!! Day』を開催しました。

第一部は、東海キャンパスにて「国際福祉開発の視座からコロナを振り返る～コロナと国際／コロナと福祉／コロナと開発～」をテーマとしてトークセッションを実施しました。



今回は、コロナ前の2020年2月以来の同窓会企画となりました。そこで、同窓会役員会では、コロナ禍で交流することが出来なかった期間について共有する機会として本企画を計画しました。

内容としては、佐藤慎一先生、千頭聡先生、岡本眞理子先生に登壇いただき、コロナ禍での研究、教育、私生活などについてお話いただきました。



当日は、約20名の同窓生が参加しました。同窓生が活躍するフィールドは

多様で、家事・育児、起業、企業等勤務や研究者などと幅広く、「国際」で学んだ者同士がコロナ禍での生活から近況、そしてこれからについて共有する場にもなりました。

質疑応答では、コロナ禍で普及した技術を用いたライフハックについての質問やコロナ前後の生活の変化に関する質問などが出ました。また、大学での学びが今の暮らしや仕事にどのように活かされて

いるのかという話も出ました。



同窓生に対して、佐藤先生からは「何が自分にとっても社会にとっても良いことなのかを学び続ける」ことの重要性についてのメッセージ、千頭先生からはこうした同窓生のように在校生を「社会に送り出す責任が自分にはある」という強い意志の提示、そして岡本先生からは「エクステンションおばあちゃん」として卒業後も大きなつながりの中で助け合いましょうという言葉をいただきました。

第二部は、場所を金山駅近くの飲食店に移し、小倉美津夫先生の謝恩会と懇親会を開催しました。小倉先生は学部長などの多数の役職を勤められたほか、教員を志願する多くの学生に対して熱心に指導をされました。当日は同窓生を代表して、元ゼミ生から記念の寄せ書きと花束が贈呈されました。

国際開発同窓会では、これからも同窓生相互の交流・親睦および情報交換を主たる目的として活動します。在学生・同窓生の皆さんの積極的な参加・協力をお待ちしています。

国際開発同窓会役員会（丹羽俊策、大石友子、牧野奈緒子）

編集後記

今号のニュースレターは、2023年度前半期の取り組みを中心に紹介しました。学部開設以来続いてきた国際交流イベントの主催をはじめ、対面での多くのイベントが実現でき、充実した時間となりました。

留学生を含めて多様な学生が日ごろからともに学ぶこの学部では、異文化理解や豊かなコミュニケーション実践の機会に溢れています。1年目から多文化、多言語環境で国籍を超えた同級生と一緒に学ぶことで、真のグローバル感覚を身に付けていきます。(担当:小國 和子)

発行人：日本福祉大学 国際福祉開発学部

〒477-0031 愛知県東海市大田町川南新田 229番地

TEL. 0562-39-3811 FAX. 0562-39-3281

編集人：国際福祉開発学部 学部長 佐藤 慎一

問合先：東海事務室 国際福祉開発学部担当 (kokusai@ml.n-fukushi.ac.jp)

インスタグラム



@NFU_KOKUSAI

フェイスブック



学部教員紹介

